

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取いなば） 9 月号

1. 智林日本語学院の留学生が選果場でアルバイト

鳥取県智頭町にある智林日本語学院の生徒 15 名が 8 月 26 日から約 3 週間、J A 鳥取いなば河原選果場で梨の選果作業のアルバイトをした(1 日あたり最高 9 名)。日本でアルバイトをする事で、生活費や授業料にあてる収入を得る事や学校外の日本人との交流を通じて日本社会を知ることが目的。

河原支店果実部下田部長は「人手不足が深刻化し、梨や柿のシーズンで特に忙しい中、よく働いてくれありがたい。職場の活性化にもつながっている」と話した。



2. 二十世紀梨初選果

8 月 26 日、露地栽培の特産「二十世紀梨」の出荷を青谷、河原、国府、郡家管内の 4 か所で始めた。

八頭町にある広域果実選果場では、開所式が開かれ、関係者約 160 人が梨シーズンの到来を祝った。同選果場の西尾梨場長は「味にこだわりをもって栽培してきたので自信を持ってお届けできる。いなばの二十世紀梨をたくさんの消費者の方に味わってもらいたい」と力を込めた。

同 J A 広域果実選果場で選果する「二十世紀梨」は、生産者 122 人が 30.5 ㊦を栽培。今年度は約 6 万ケース (10 ㊦箱) 出荷し、販売金額は 2 億 4 千万円を計画している。



3. ヘリ防除で病害虫防ぐ

管内では水稻の病害虫の重点防除期間に入り、安定した品質に繋げるため無人ヘリコプターによる薬剤散布で防除が進められている。

気高支店ではランドサイエンス㈱とジェイエイアグリサービス㈱のオペレーターがそれぞれ無人ヘリコプターを操縦し、「いもち病」「紋枯病」「カメムシ類」を中心に、出穂前後の計2回、防除を行った。

本年度は7月中旬から8月下旬ごろまで作業が行われ、同支店管内のヘリ防除は、出穂前後合わせて450㍏で実施された。



4. こおげ花御所柿巡回指導会

郡家支店柿生産部は、鳥取県東部の限られた地域で栽培される地理的表示（G I）保護制度に登録されている「こおげ花御所柿」の巡回指導会を開いた。指導会では生産者の圃場を巡回し、生育や着色状況などを確認。日焼けの程度や病害虫被害、樹勢の強弱などを指導し、乾燥対策として灌水実施を呼び掛けた。

同生産部の細田部長は「生育は順調にきている。収量確保と高品質な果実の生産に向けて指導に携わる人材の育成も急がれる。これからは灌水が大事になってくるのでしっかり管理したい」と話した。

